熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群8号墳

2002

埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群8号墳

2002

埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

序

私たちの郷土熊谷には、原始・古代の集落跡や中世の館跡等の埋蔵文化財が数多く分布しております。

こうした埋蔵文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証であるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、石原古墳群は熊谷市大字石原に所在する古墳群で、かつて四八塚と称され、市内でも密集した古墳群を形成している地域です。

このたび有限会社信栄によりまして、道路建設の計画がもちあがりました。貴重な埋蔵文化財であることから、遺跡の保護と保存について、協議を重ねてまいりましたが、事業計画の変更が難しかったことから、急遽、石原古墳群調査会を設立し、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、平成13年８月から９月に実施された発掘調査の成果をまとめたものでございます。今回の調査によって、いろいろな種類の埴輪が立てられていた古墳であることが確認されました。

本書を、埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を御理解、御協力を賜りました有限会社信栄並びに地元関係者には厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

熊谷市石原古墳群調査会

会　長　**飯　塚　誠一郎**

例　言

1　本書は、埼玉県熊谷市大字石原字羽黒1,147番地他に所在する石原古墳群８号墳の発掘調査報告書である。

2　発掘調査届出に対する埼玉県教育委員会からの指示通知は平成13年９月４日付け教文第３―466号である。

3　発掘調査は、道路建設に伴う事前調査であり、熊谷市石原古墳群調査会が実施した。

4　発掘調査及び整理、報告書作成期間は、下記のとおりである。

発掘調査期間　平成13年８月27日～９月７日

整理、報告書作成期間　平成13年11月２日～３月29日

5　発掘調査の担当、本書の執筆・編集は、金子正之が行った。

6　発掘調査の組織は、Ⅰ章のとおりである。

7　発掘調査における写真撮影は金子・加藤隆則が行い、遺物の写真撮影は金子が行った。

8　遺跡分布図・遺跡位置図・全測図・コンター図・断面図・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺跡分布図１/50,000、遺跡位置図１/5,000、全測図・コンター図・断面図１/200、遺物実測図１/４

9　遺物観察及び遺構の土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修1997年版）を参考とした。

10　本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会が保管する。

11　本書の作成にあたって、鴻巣市教育委員会山崎武氏に御教授を受けた。記して感謝いたします。

目　次

序
例言
目次

Ⅰ　発掘調査の概要……1
　1　調査に至る経過……1
　2　発掘調査・報告書作成の経過……1
　3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織……2
Ⅱ　遺跡の立地と環境……3
Ⅲ　遺跡の概要……6
　1　調査の方法……6
　2　検出された遺構と遺物……7
Ⅳ　遺構と遺物……8
　1　墳丘と周溝……8
　2　出土遺物……9
Ⅴ　調査のまとめ……14

挿図目次

第１図　埼玉県の地形図……2
第２図　周辺遺跡分布図……4
第３図　石原古墳群８号墳位置図……5
第４図　石原古墳群８号墳全測図……6
第５図　石原古墳群８号墳断面図……7
第６図　石原古墳群８号墳コンター図……8
第７図　墳丘部出土遺物……9
第８図　周溝出土遺物（１）……10
第９図　周溝出土遺物（２）……12
第10図　遺構外出土遺物……12

図版目次

図版１－１　北からの遠景
１－２　発掘調査風景
図版２－１　８号墳（北から）
２－２　８号墳（南から）
図版３－１　北側の周溝（東から）
３－２　南側の周溝（西から）
図版４－１　人物埴輪出土状態
４－２　墳丘部出土遺物
図版５－１　周溝出土遺物
５－２　周溝出土遺物
図版６－１　周溝出土遺物
６－２　遺構外出土遺物

表目次

第１表　墳丘部出土遺物観察表……9
第２表　周溝出土遺物観察表……11
第３表　遺構外出土遺物観察表……13

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成13年２月15日付けで有限会社信栄から熊谷市教育委員会に今回の開発予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて照会文書が提出され、熊谷市教育委員会は周知の遺跡であるので試掘調査を要する旨の回答を行った。

熊谷市教育委員会は、平成13年５月11日に試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が確認され、その旨を有限会社信栄へ回答するとともに、保存に関する協議を重ねたが、計画変更が不可能であると判断されたため、やむをえず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

協議の中で、有限会社信栄からできるだけ早く調査に入り、早期に調査を完了できるようにとの要請があり、熊谷市教育委員会は熊谷市石原古墳群調査会を設立し、発掘調査を実施することとなった。有限会社信栄と熊谷市石原古墳群調査会は平成13年８月27日に埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結した。また、有限会社信栄から文化財保護法第57条の２第１項に基づく発掘届出が、熊谷市石原古墳群調査会から文化財保護法第57条第１項に基づく発掘届出がそれぞれ埼玉県教育委員会教育長へ提出され、平成13年８月27日から発掘調査が開始された。

なお、埼玉県教育委員会から有限会社信栄あてに平成13年９月４日付け教文第３-466号で発掘調査の実施についての指示通知があった。

2　発掘調査・報告書作成の経過

(1)　発掘調査

発掘調査は、平成13年８月27日から９月７日にかけて行われた。調査面積は、道路工事部分141.32㎡であった。平成13年８月27日に重機で表土剝ぎを行い、８月28日から遺構の精査作業を行った。主体部は既に墳丘が削平されており、確認できなかった。周溝部分は人力で掘り下げた。遺物は少なく、埴輪の破片と土師器の破片が確認されたのみであった。調査は、平成13年９月７日に終了した。

(2)　整理・報告書作成作業

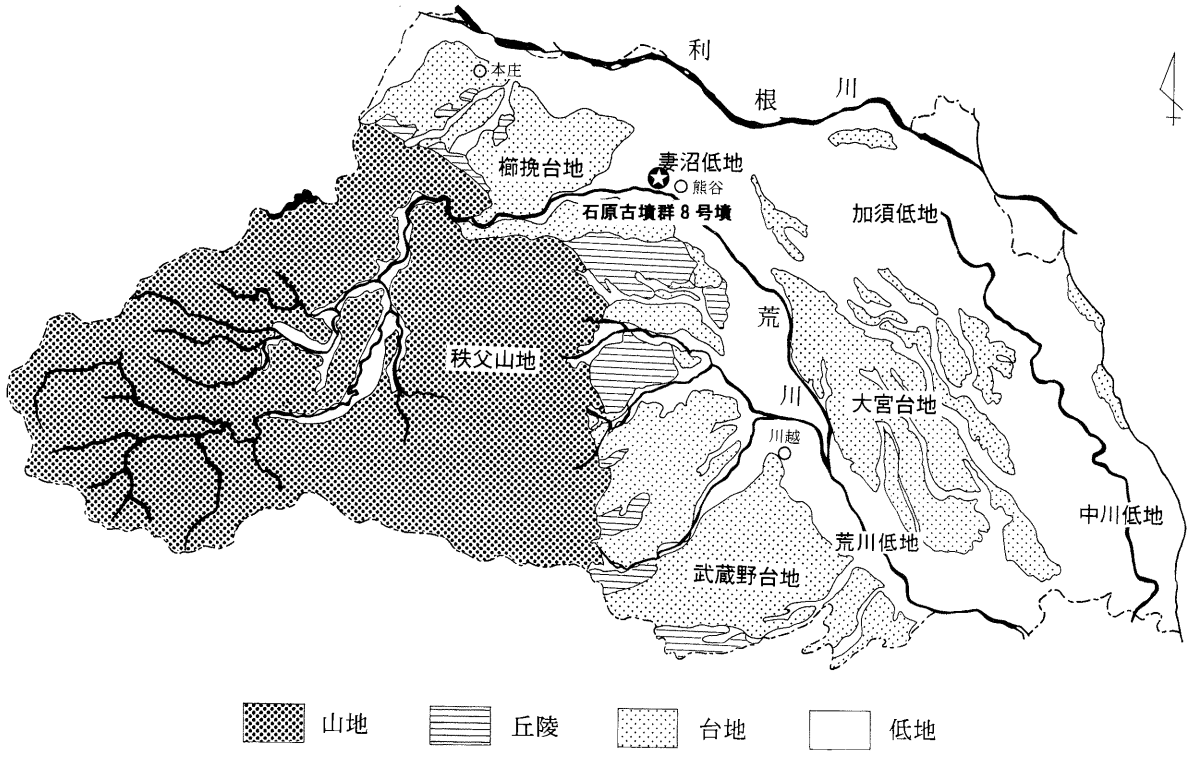
整理作業は、平成13年11月１日から始めた。遺物の洗浄・注記を行い、それと同時に遺構の図面整理作業を行った。遺物の実測・拓本取り・写真撮影を行い、遺構・遺物図面のトレース、遺構・遺物の図版組を行った。

その後、原稿執筆、割付等の作業、報告書の印刷、校正を行った後、３月末日に本報告書を刊行した。

3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

調査主体者　熊谷市石原古墳群調査会

会　　長	飯塚誠一郎	（熊谷市教育委員会教育長）
理　　事	新井壽郎	（熊谷市文化財保護審議会会長）
	小林武夫	（熊谷市教育委員会教育次長）
監　　事	石橋桂一	（熊谷市文化財保護審議会副会長）
	金子利夫	（熊谷市教育委員会総務課長）
事務局長	岩田　隆	（熊谷市教育委員会社会教育課長）
事務局次長	浅野晴樹	（熊谷市教育委員会社会教育課副参事）
事務局員	金子正之	（熊谷市教育委員会社会教育課主幹兼文化財保護係長）
	吉野　健	（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係主任）



第１図　埼玉県の地形図

II　遺跡の立地と環境

熊谷市の地形は、大半が荒川左岸の沖積扇状地（熊谷扇状地）の低地と、利根川とその支流により形成された沖積地（妻沼低地）であり、西縁と南縁がそれぞれ洪積扇状地の櫛引台地と江南台地の末端にあたる。

石原古墳群８号墳は、埼玉県熊谷市大字石原字羽黒1,147他に所在しており、JR 高崎線熊谷駅の北西約2.5km、荒川から北へ約１kmの所に位置している。本古墳の所在する石原地区は、熊谷市の中央部にあたり、かつて四八塚と呼ばれ、市内でも古墳が密集している地域である。

本古墳は、熊谷扇状地に形成された自然堤防上に立地し、標高34～35mを測り、古墳の北側は１～２m程低く水田となっており、旧河道と考えられる。

石原古墳群は、現在８基の古墳が確認されている。本古墳の北西側にある天神前遺跡から、平成２年度の調査により古墳１基・溝跡・集石遺構が発見されている。西側にある兵部裏屋敷跡からは、平成９年度の調査により、石原古墳群７号墳と溝跡・ピット・土坑が検出されている。

石原古墳群の北には、坪井古墳群があり、７基の古墳が確認されている。昭和47年に薬師堂古墳が調査され、控積の横穴式石室から銅釧・耳環・直刀・刀子・鉄鏃・埴輪等が出土している。

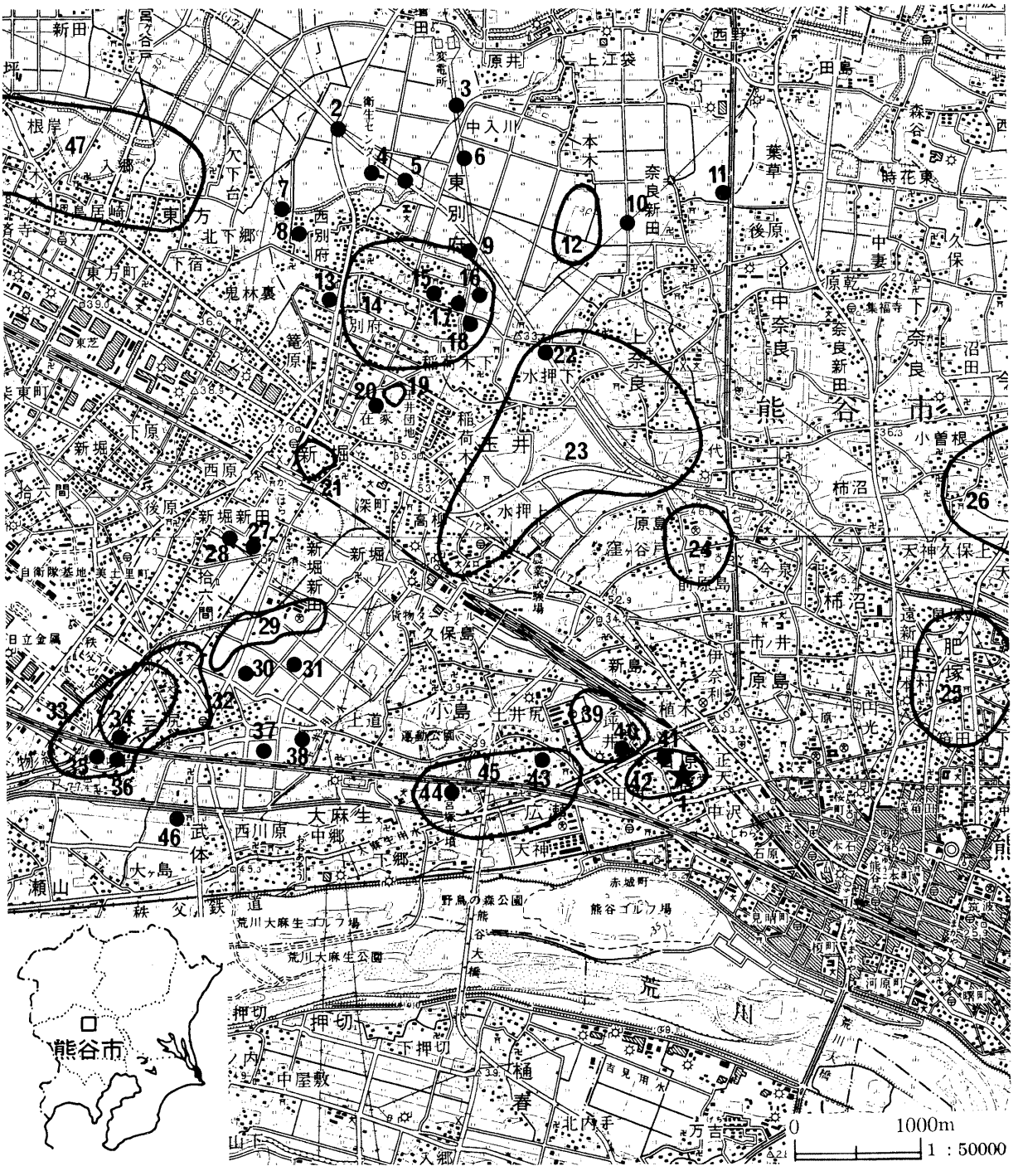
石原古墳群の西南には広瀬古墳群があり、上円下方墳という珍しい形で国指定史跡の宮塚古墳の他、８基の円墳と２基の方墳が確認されている。

熊谷市内には、石原地区以外にも古墳群が多く見られ、市域の北側には別府古墳群・玉井古墳群・原島古墳群・肥塚古墳群・中条古墳群などある。西部には三ヶ尻古墳群があり、南部には村岡古墳群・瀬戸山古墳群がある。

別府古墳群は、16基の円墳と１基の前方後円墳があり、昭和41年(1,966)に仲廓古墳の調査が行われ、円筒埴輪列の一部が検出されている。ヤス塚古墳からは農夫の埴輪が出土している。玉井古墳群は17基の円墳と２基の方墳があり、昭和55年（1,980）に新ケ谷戸遺跡が調査され、１号墳は胴張りの横穴式石室をもち、土師器・須恵器・直刀・鉄鏃等が出土している。原島古墳群は、３基の円墳が確認されている。肥塚古墳群は、14基の円墳があり、平成４年(1,992)に１号墳から３号墳の３基の円墳が調査され、それぞれ胴張りの横穴式石室をもち、円筒埴輪・形象埴輪・土師器・須恵器・直刀・耳環・鍔・滑石製模造品等が出土している。

中条古墳群は、22基の円墳と２基の帆立貝式前方後円墳が確認されている。昭和54年に、帆立貝式前方後円墳の鎧塚古墳が調査され、円筒埴輪列が確認され、２カ所の墓前祭祀の跡も確認された。祭祀跡から須恵器の高坏型器台・高坏や土師器の高坏・坏等が出土している。昭和56年には女塚１号～４号墳が調査され、１号墳は帆立貝式の前方後円墳で円筒埴輪列が確認され、盾を持つ武人埴輪等の形象埴輪も出土している。２号墳からは動物の形象埴輪（馬・猪・鹿）が出土している。昭和57年と59年に大塚古墳が調査され、胴張りの横穴式石室で複室構造であることが確認され、金装銅製鞘尻金具・鉄鏃・勾玉・金箔塗漆木棺片等が出土している。

三ヶ尻古墳群は、58基の円墳と二子山古墳・運派塚の２基の前方後円墳があり、昭和53～55年に新幹線建設とそれに伴うセメント工場の貨物引込線拡張に伴い発掘調査が行われ、22基の円墳が発見され調

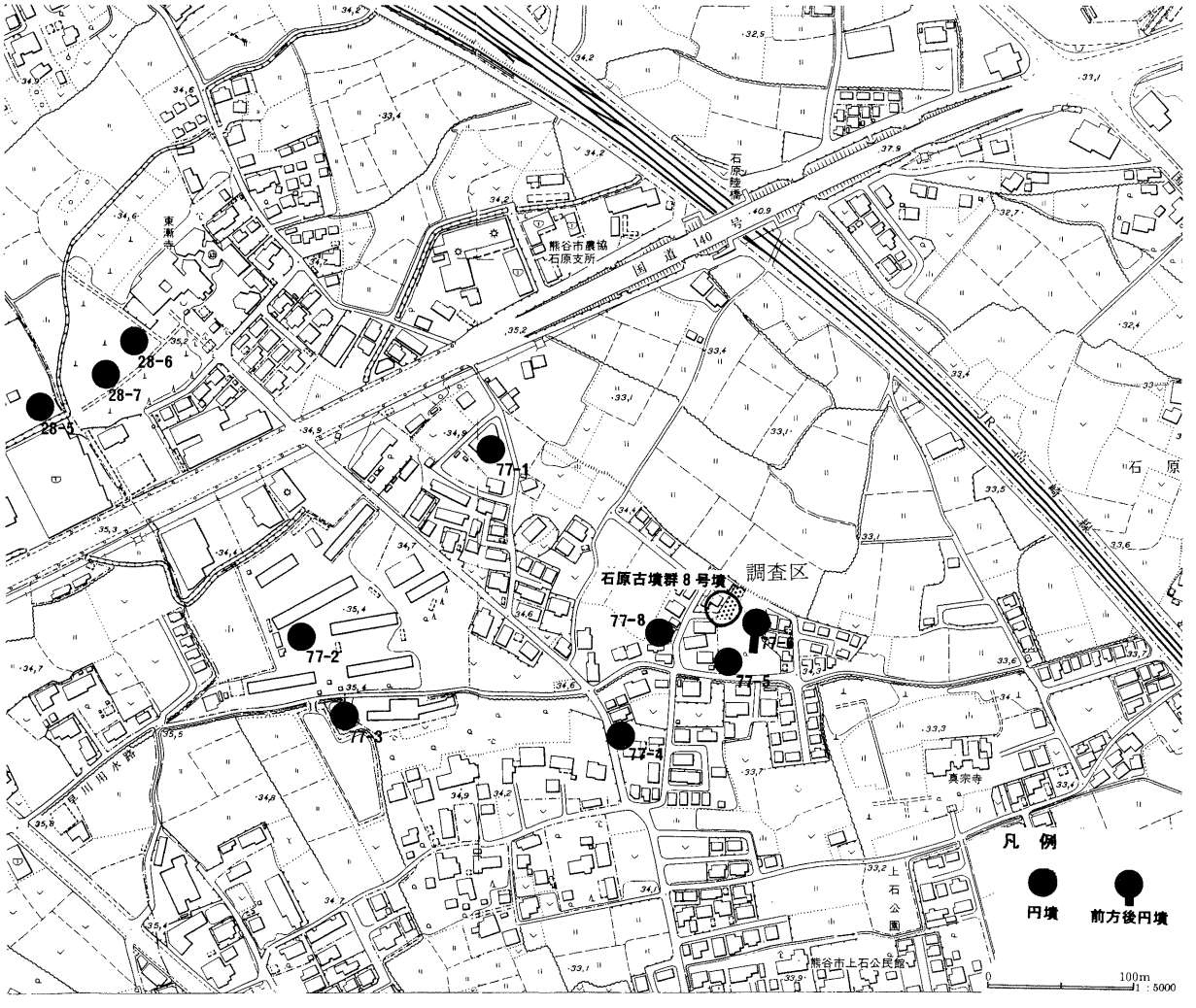


1 石原古墳群 8 号墳　2 根絡遺跡　3 入川遺跡　4 横間栗遺跡　5 関下遺跡　6 深町遺跡　7 西別府祭祀遺跡　8 西別府廃寺　9 八反田遺跡　10中耕地遺跡　11横塚山古墳　12一本木前遺跡　13原遺跡　14別府古墳群　15 東別府館跡　16寺東遺跡　17中廓古墳　18ヤス塚古墳　19在家古墳群　20在家遺跡　21籠原裏古墳群　22新ヶ谷戸遺跡　23玉井古墳群　24原島古墳群　25肥塚古墳群　26中条古墳群　27堂西遺跡　28拾六間後遺跡　29樋の上遺跡　30若松遺跡　31黒沢館跡　32三ヶ尻遺跡　33三ヶ尻古墳群　34三ヶ尻林遺跡 4 号墳　35二子山古墳　36三ヶ尻№80古墳　37松原遺跡　38庚申塚遺跡　39坪井古墳群　40薬師堂古墳　41天神前遺跡　42石原古墳群　43高根遺跡　44宮塚古墳　45広瀬古墳群　46社裏遺跡　47木の本古墳群

第 2 図　周辺遺跡分布図

査されている。古墳跡が多かったが、埴輪を持つものとそうでないものがあり、石室は河原石を利用した横穴式石室である。その中でやねや塚古墳は、保存状態がよく円筒埴輪列が一周しており円筒埴輪のほかに、人物・馬・大刀・家形埴輪などがあり、石室の中からは頭椎大刀・鉄鏃・刀子・耳環・銅釧などが出土している。

村岡古墳群は、４基の円墳があり、瀬戸山古墳群は34基の円墳と１基の前方後円墳（伊勢山古墳）が確認されている。伊勢山古墳は、昭和36年（1,961）に調査され、石室は片袖式の横穴式石室で直刀･刀子・鉄鏃・鉄製轡・金環等が出土している。昭和52年（1,956）には楊井薬師寺古墳が２基調査され、１号墳の埋葬施設は凝灰質砂岩の胴張り形の横穴式石室で、３号墳は直線胴の横穴式石室であることが確認されている。



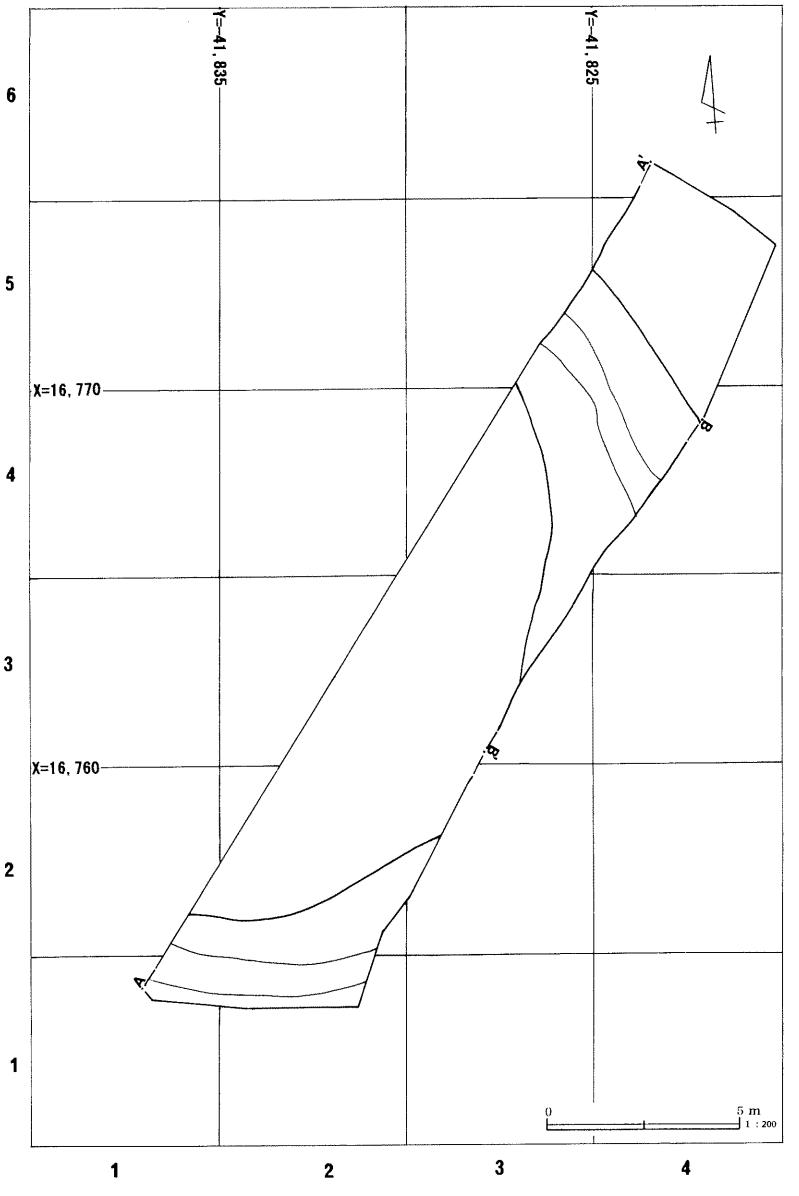
第３図　石原古墳群８号墳位置図（数字は県遺跡地名表番号）

III　遺跡の概要

1　調査の方法

発掘調査の方法は、調査区内に国家座標に合わせた５ｍグリッドを設定した。グリッドは、調査区南西隅を１－１グリッドとして、東西方向は西から東へ１・２・・・とし、南北方向は南から北へ１・２・・・と呼称した。

発掘調査は、墳丘が削平されていたので、周溝確認面まで重機による表土剝ぎを行い、その後、上記のグリッド設定を行った。そして、人力によって周溝確認のため精査を行い、確認された周溝を手掘りで掘り下げた。途中、遺物の写真撮影・実測、遺構の写真撮影・実測を行ったが、実測は５ｍグリッド



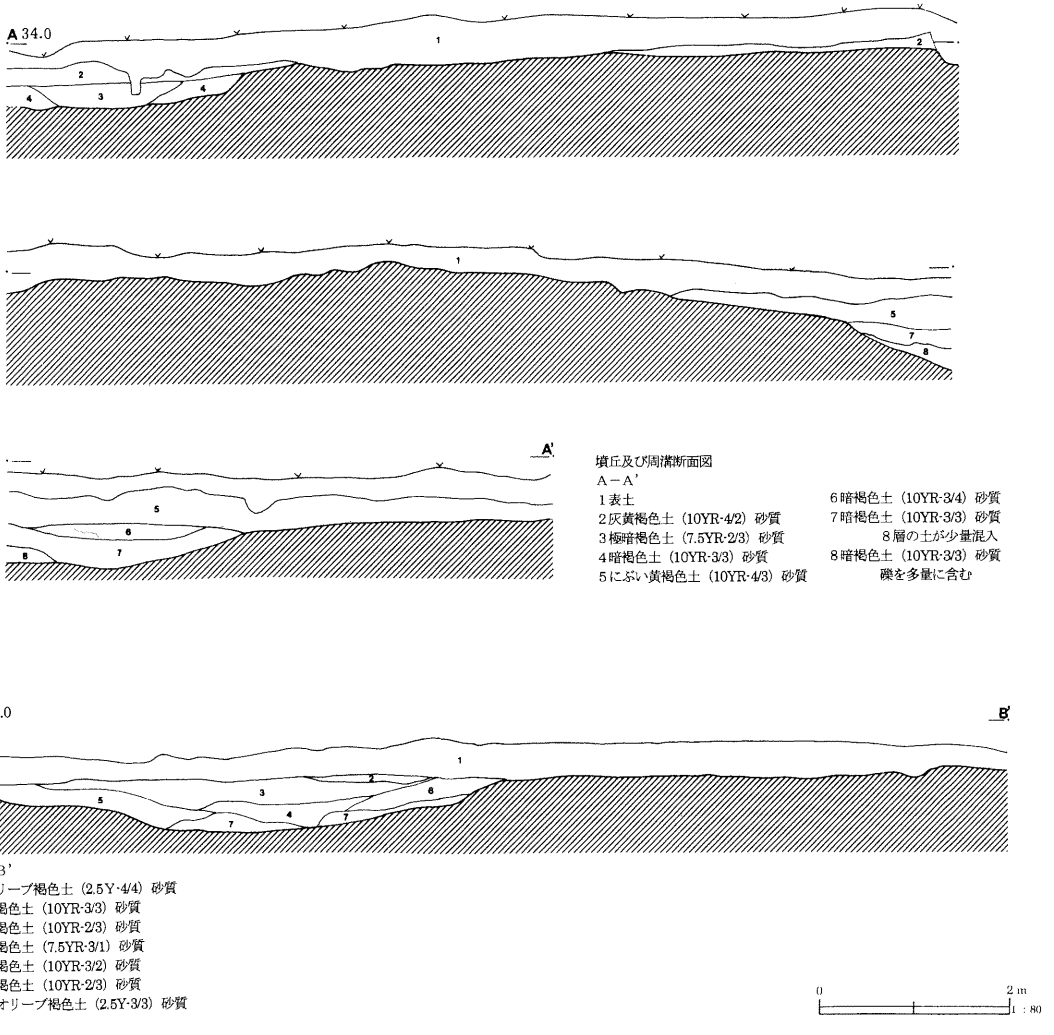
第４図　石原古墳群８号墳全測図

の杭を基準として１m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による実測を行った。完掘後、調査区全体と遠景の写真撮影を行い、現場での調査を終了した。

2　検出された遺構と遺物

検出された遺構は、古墳の周溝の一部である。古墳の南東部にトレンチを入れたような形で調査を行った。北側は周溝の立上りが確認されたが、南側は周溝の立上りが確認できなかった。

出土遺物は、墳丘部と周溝部から多くの埴輪片が検出され、墳丘からは五領期の土師器甕の破片が少量確認された。埴輪は、円筒埴輪・朝顔形埴輪・馬形埴輪・人物埴輪などであった。



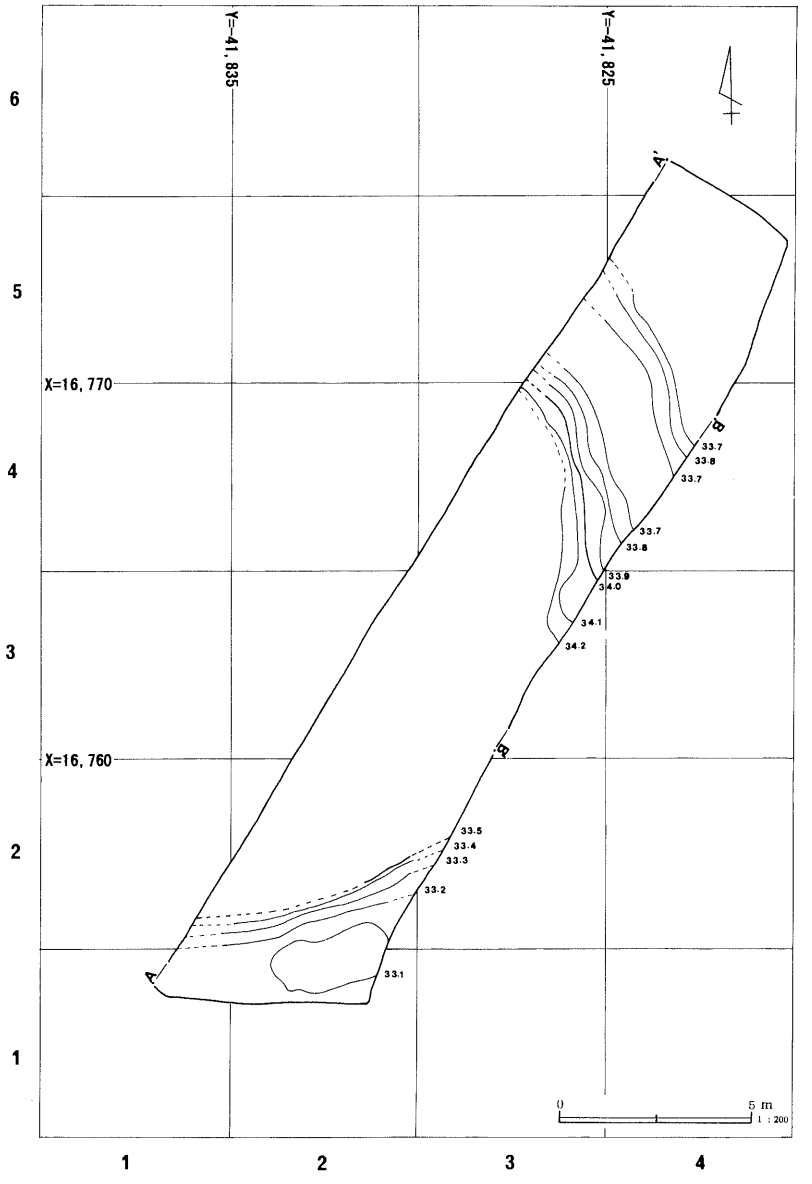
第５図　石原古墳群８号墳断面図

IV　遺構と遺物

1　墳丘と周溝（第４～６図）

墳丘は、既に削平されていたが、円形を呈すると考えられ、直径は約18mであった。

周溝は、幅約４m、深さ46～58cmを測る。緩やかな傾斜で掘り込まれていて、底部はほぼ平らであった。周溝の覆土は、砂質の黒褐色土と暗褐色土が堆積していた。



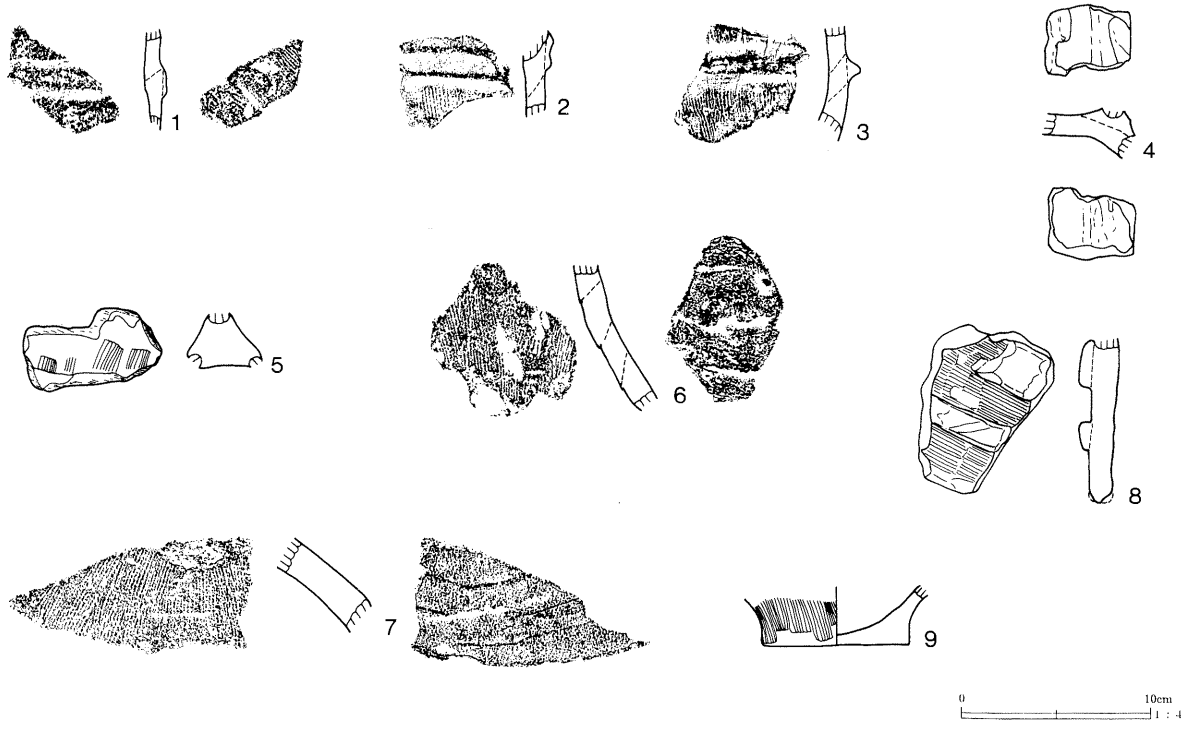
第６図　石原古墳群８号墳コンター図

2　出土遺物（第7図～10図・第1～3表）

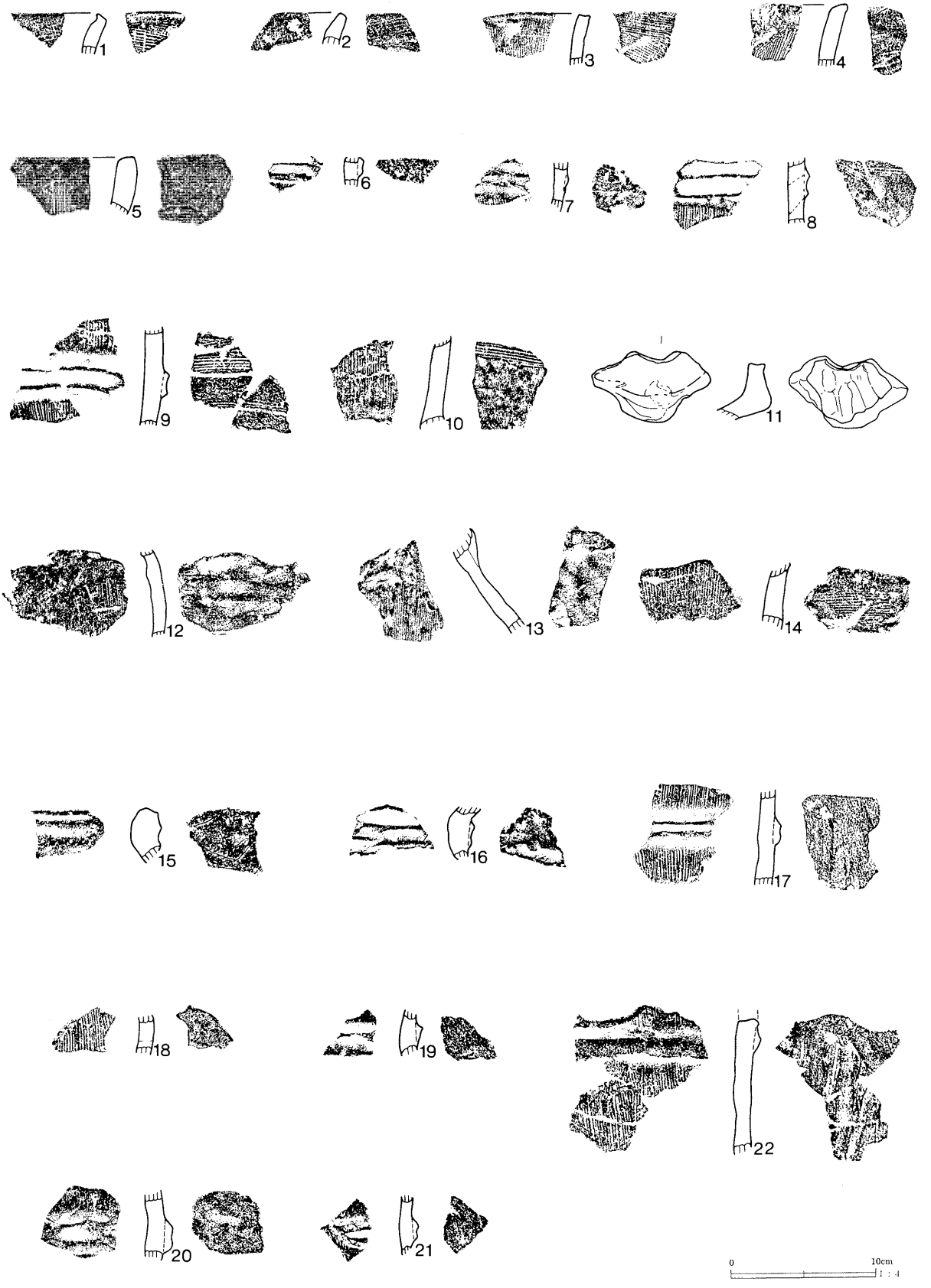
墳丘部から、円筒埴輪片・朝顔形埴輪片・形象埴輪片（家・人物・馬）、古墳時代前期の土師器甕の底部が出土した。周溝からは、円筒埴輪片・朝顔形埴輪片・形象埴輪片（人物など）、遺構外からは円筒埴輪片・形象埴輪片（人物・馬など）が出土した。

第1表　墳丘部出土遺物観察表

挿図番号	種　別	手法、形態の特徴等	胎　　土	焼　成	色　　調	備　　考
7－1	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：右下がりのハケ 突帯は扁平な台形	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	不良	橙色	
7－2	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 突帯は扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母	良好	にぶい赤褐色	
7－3	朝顔 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 突帯は三角形	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	にぶい橙色	
7－4	形象 埴輪	外面：指ナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母	良好	にぶい赤褐色	家の可能性
7－5	埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子 黒雲母 礫	良好	明赤褐色	人物
7－6	埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	人物
7－7	形象 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	人物の腰、または家の屋根
7－8	形象 埴輪	外面：ハケ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	明赤褐色	馬の頭部
7－9	土師器 甕	外面：縦ハケ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	にぶい黄褐色	



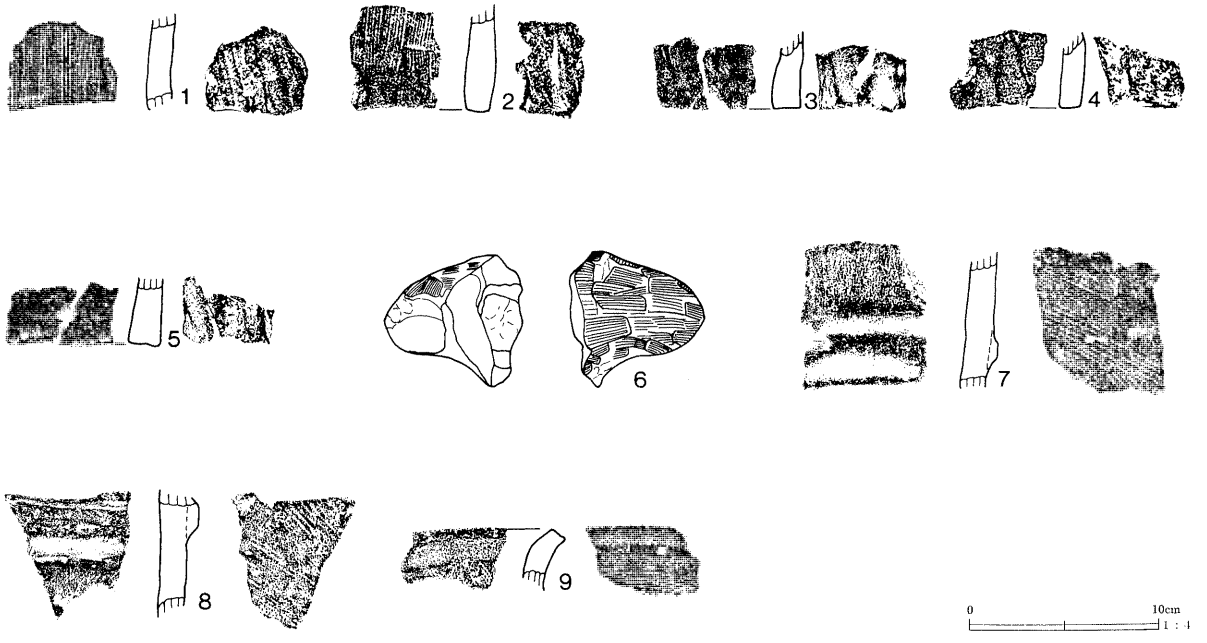
第7図　墳丘部出土遺物



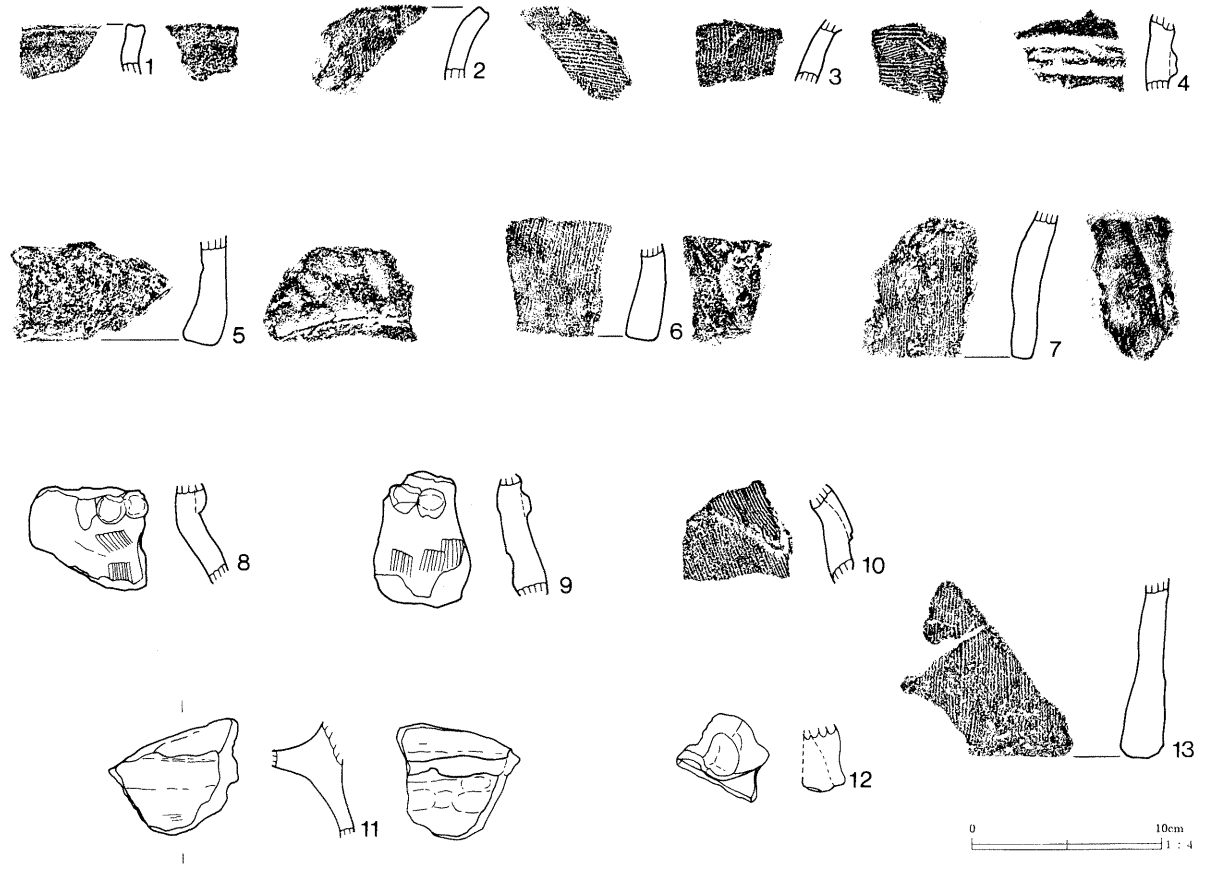
第 8 図　周溝出土遺物（1）

第２表　周溝出土遺物観察表

挿図番号	種　別	手法、形態の特徴等	胎　　土	焼　成	色　　調	備　　考
8－1	円筒 埴輪	口唇部：ヨコナデ 外面：ナデ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	赤褐色	
8－2	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	明赤褐色	
8－3	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　礫	普通	赤褐色	
8－4	円筒 埴輪	口唇部：ヨコナデ 外面：縦ハケ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	明赤褐色	
8－5	円筒 埴輪	口唇部：ヨコナデ 外面：縦ハケ 内面：ナデ	白色粒子　赤褐色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
8－6	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：不明 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	赤褐色	
8－7	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：ナデ 突帯：扁平な三角形	黒色粒子　白色粒子 礫	良好	赤褐色	
8－8	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ及びナデ 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	黄褐色	
8－9	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ 突帯：「M」字形	白色粒子　黒色粒子 礫	良好	赤褐色	
8－10	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ及びナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	黄褐色	
8－11	人物 埴輪	外面：指ナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	顔のあごの可能性
8－12	人物 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	橙色	胴部
8－13	人物 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	橙色	胴部
8－14	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 礫	普通	にぶい橙色	
8－15	朝顔 埴輪	外面：横ナデ 内面：ナデ	白色粒子　黒雲母　礫	普通	橙色	
8－16	朝顔 埴輪	外面：横ナデ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	普通	赤褐色	
8－17	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 突帯：「M」字形	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母　礫	良好	赤褐色	
8－18	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 円形のスカシあり	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
8－19	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：ナデ 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	明赤褐色	
8－20	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：ナデ 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　礫	普通	橙色	
8－21	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒色粒子	良好	赤褐色	



第９図　周溝出土遺物（２）



第10図　遺構外出土遺物

8—22	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ 突帯：扁平な台形 円形のスカシあり	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　礫	良好	赤褐色	
9—1	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
9—2	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 基部外面：ナデ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
9—3	形象 埴輪	外面：ヘラナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	赤褐色	
9—4	形象 埴輪	外面：ヘラナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	赤褐色	
9—5	形象 埴輪	外面：ヘラナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	赤褐色	
9—6	人物 埴輪	外面：ハケ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	右肩部
9—7	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：右下がりのハケ 突帯：扁平な台形	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母	普通	橙色	
9—8	円筒 埴輪	内面：右下がりのハケ 突帯：台形	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母	普通	橙色	
9—9	円筒 埴輪	外面：右下がりのハケ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　黒雲母	普通	橙色	

第 3 表　遺構外出土遺物観察表

挿図番号	種　別	手法、形態の特徴等	胎　　土	焼　成	色　　調	備　　考
10—1	円筒 埴輪	口唇部：ヨコナデ 外面：縦ハケ 内面：横ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
10—2	円筒 埴輪	口唇部：ヨコナデ 外面：縦ハケ 内面：横ハケ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
10—3	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：横ハケ	白色粒子　赤褐色粒子 礫	良好	明赤褐色	
10—4	円筒 埴輪	内面：ナデ 突帯：扁平な「M」字形	白色粒子　黒雲母 礫	良好	赤褐色	
10—5	円筒 埴輪	外面：ナデ 内面：ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	にぶい橙色	
10—6	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 基部外面：ナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 赤褐色粒子　雲母　礫	良好	赤褐色	
10—7	円筒 埴輪	外面：縦ハケ 内面：右下がりのハケ	白色粒子　赤褐色粒子 黒雲母　礫	普通	橙色	
10—8	人物 埴輪	外面：縦ハケとナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	橙色(一部赤褐色)	首飾りを有する。
10—9	人物 埴輪	外面：ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 礫	やや不良	にぶい橙色	首飾りを有する。
10—10	人物 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母	良好	赤褐色	
10—11	円筒 埴輪	外面：指ナデ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	明赤褐色	
10—12	形象 埴輪	外面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	橙色	馬の頭部
10—13	形象 埴輪	外面：縦ハケ 内面：指ナデ	白色粒子　黒色粒子 黒雲母　礫	良好	にぶい赤褐色	形象埴輪の台部

V　調査のまとめ

今回の調査によって、石原古墳群８号墳の周溝の一部が確認された。墳丘部の直径が約18mの円墳と考えられ、周溝の幅が約４m、深さ46～58cmであった。石室は検出されなかったが、墳丘部と周溝から多くの埴輪片が確認され、それらは円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪（馬・人物・家等）であった。

平成３年度に調査された天神前遺跡１号墳も墳丘が削平されていて、胴張りの横穴式石室の一部と周溝の一部が確認されただけであった。石室から耳環、刀子が出土し、周溝等からは埴輪片が多数出土した。埴輪片は、円筒埴輪・形象埴輪（家・馬・人物・靱・大刀など）であった。

平成９年度に調査された石原古墳群７号墳は、調査区が狭く、周溝の一部のみ検出され、少量の埴輪片が出土しただけであった。しかし、表土剝ぎの際に確認された埴輪片の中に大刀形埴輪片があった。

今までに実施された石原古墳群の３基の古墳の調査結果を上に述べたが、石原地区にも、６世紀代、円筒埴輪だけでなく、朝顔形埴輪や人物・馬・家・大刀などの形象埴輪をもつ古墳が築かれていたことが確認された。

発掘調査風景

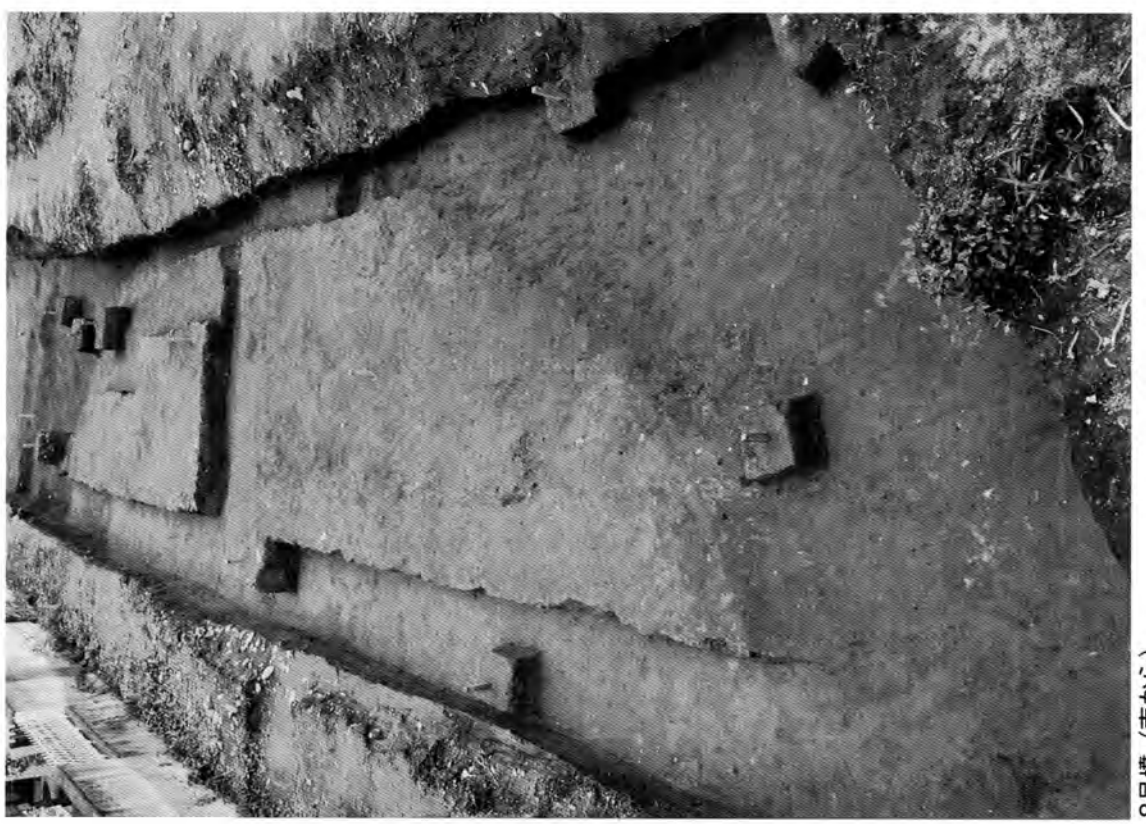
写　真　図　版

北からの遠景

発掘調査風景

図版2

8号墳（北から）



8号墳（南から）

北側の周溝（東から）

南側の周溝（西から）

図版４

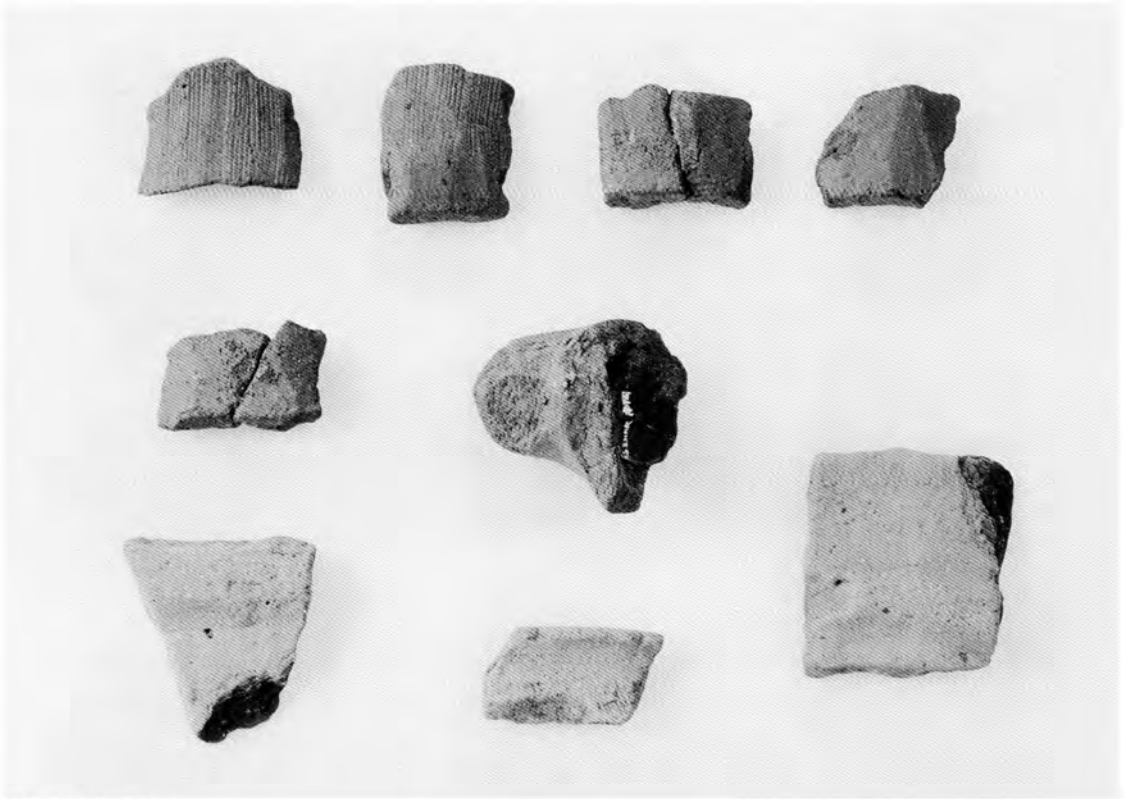
人物埴輪出土状態

墳丘部出土遺物

周溝出土遺物

周溝出土遺物

図版6



周溝出土遺物

遺溝外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いしはらこふんぐんはちごうふん
書名	石原古墳群８号墳
副書名	熊谷市石原古墳群調査会埋蔵文化財調査報告書
編著者名	金子正之
編集機関	埼玉県熊谷市石原古墳群調査会
所在地	〒360-8601　埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地１　TEL048-524-1111
発行年月日	西暦2002（平成14）年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (° ′ ″)	東経 (° ′ ″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
いしはらこふんぐん 石原古墳群 はちごうふん ８号墳	さいたまけんくまがや 埼玉県熊谷 しおおあざいしはら 市大字石原 あざはぐろ 字羽黒1,147 番地他	11202	077	36°09′00″	139°22′06″	20020827 ～ 20020907	141.32	道路工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石原古墳群 ８号墳	古墳	古墳時代	周溝	埴輪片	

熊谷市石原古墳群埋蔵文化財調査報告書

石原古墳群８号墳

平成14年３月29日発行

発　行／埼玉県熊谷市石原古墳群調査会

印　刷／朝日印刷工業株式会社

さくらのまち"熊谷"